

「人工干潟造成計画」の中止と江戸川放水路に今ある自然干潟の整備を求めます

田中市長は、市民の力で守られた三番瀬の一部である塩浜 2 丁目護岸前の浅瀬で人工干潟造成計画を発表しました。事業費は造成費だけで 3.5～7.5 億円、面積は 0.5ha です。この海域は、千葉県が人工干潟造成について慎重に検討した結果、計画を断念した海域です。

私達も市民と子供たちが海に触れ、海に学んでほしいと思っていますが、市内にはすでに市民が触れ合える自然干潟があるので、人工干潟をつくる必要はありません。市長も市長選挙の際には「人工干潟ではなく、自然環境を大切にしたい『三番瀬』の環境整備に努めたい」と言っていたではありませんか？ そのご発言を守るとともに、今ある自然干潟を、市民と子供たちが利用しやすいように整備して下さい。

【人工干潟造成計画の中止を求める理由】

- (1) 今残っている浅瀬を守ることが大事です(ラムサール条約の湿地保全と復元の原則) 。
自然は人智を超えた複雑な営みであり、人間の思い通りにはなりません。干潟ではない浅瀬にも、その場所を好む生物が生息しています。水質浄化能力も持った貴重な海域です。したがって、ラムサール条約も、環境省も、「人工干潟」なら何でも良いとはしていないのです。
千葉県は、人工干潟を造ったとしても、①干潟の維持と生き物の定着を両立させることは困難で、②多額の整備費や維持管理費を要する、③三番瀬の自然環境再生への効果は限定的としました。
- (2) 「市民が海に触れられる場」として江戸川放水路河口の今ある干潟を活用すべきです。
干潮時には、市が計画している人工干潟の 10 倍以上広い自然干潟が現れます。江戸川放水路と聞くと「川」「淡水」と思うかもしれませんが、三番瀬と同じ海域環境であり、三番瀬本体には稀なオキシジミ、アナジャコなども生息し、三番瀬をより生物多様性豊かな所にしてくれています。休日は多くの市民や都民が訪れ、潮干狩り、ハゼ釣り、バードウォッチングなどを楽しんでいます。
駐車場やトイレ・足洗い場などを整備し、市民が利用しやすいようにして下さい。
- (3) 人工干潟は人身事故の危険性あり
兵庫県明石市の大蔵海岸では、人工砂浜が突然陥没し、4 歳の女兒が生き埋めになって死亡しました。人工砂浜の管理を担当していた行政職員 4 人が禁錮 1 年の有罪となり 4 人とも失職しました。
人工干潟予定地には深い滞筋があり、ここに人工干潟を造成したら、同じような陥没が危惧されます。そのようなリスクを背負う必要はないのです。

氏 名	住 所